

精神病院 部会

単組代表者会議 初開催



日本医労連精神病院部会では、初めての取り組みとして「精神病院部会単組代表者会議」を開催しました。新型コロナウイルス禍のもとで活動が制限され、これまでのように集まって情報の共有を図る事が難しくなりました。そこで、オンラインの活用をしてこまめに情報を共有しようということで、代表者会議を開催する運びとなりました。この会議には単組の役員をはじめ、県医労連の書記長など約30人が参加し、活発な議論が交わされました。

冒頭の佐々木部会長の挨拶では、精神医療の歴史にまで遡りながら最近の精神医療の問題点を指摘し、精神病院部会に結集して運動をすすめてよと呼びかけました。基調報告では、新型コロナやロシアのウクライナ侵攻の問題にも触れながら、日本医労連の取り組みや精神病院部会の運動への結集強化と要求前進の土台となる組織強化・拡大の取り組みの推進の必要性が述べられました。

2本の特別報告では、石川・松原病院労組から精神病院のクラスター発生について、東京・慈雲堂労組からは22春闘でのストライキを構えた賃金闘争について報告がありました。

その後、2つに分かれて行った分散会討論では、特別報告の感想や日常での組合活動の状況、職場の状況などについて交流しました。

集会のまとめでは、今回初めて開催した単組代表者会議を今後も開催してほしいという意見が出されたことが報告されました。引き続き、コロナ禍で単組同士の情報共有や繋がり強化を目指しながら、精神病院部会として取り組みをすすめていきたいと考えています。

特別報告から

新型コロナウイルス感染症

クラスターを経験して（松原労組）

クラスターの経験を通して、問題点や教訓、今後の課題などについて報告がありました。ゴミの回収というマニュアルの盲点について感染が広がったことなど、リアルな話に参加者からも質問が相次ぎました。

22春闘 スト構えて要求実現へ（慈雲堂労組）

慈雲堂労組からは、毎年、全く同じ回答が示されていることに対して、ストライキを構えて要求の前進を目指す決意が語られました。一度確立したスト権をやり直し、ストの重要性などについて丁寧に職場討議を行い、高率でスト権を批准しなおしたことや、その中で仲間を増やしたことが報告されました。

裏面に講演会のご案内があります

五叉路会

2022年・第1回講演会のお知らせ オンライン (Zoom)

『伊藤時男さんは、なぜ国賠訴訟を起こしたか』

■日時：3月30日(水) 18時30分～21時

■お話をする人

原告 伊藤時男氏

長谷川敬祐 弁護士 ・ 姜文江 弁護士

■参加費 1,000円 (定員100名)

【振込先】○郵便振替 00110-6-71401 きょうされん研修会
○ゆうちょ銀行 ○一九(ゼロイチキュウ)店
当座 0071401 キョウサレンケンシュウカイ
(振り込みは「きょうされん研修会」の口座を借りしました)

＜ 国賠訴訟とは ＞

伊藤時男さんはNHK Eテレ「長すぎた入院」で紹介されるなど、度々マスコミに登場しています。時男さんは2020年9月30日、国が精神障害者に対する隔離収容政策を改めなかったことで、地域で暮らす機会を奪われ、約40年の長期入院を強いられたとして、国に3,300万円の損害賠償を求めて東京地裁に提訴しました。時雄さんは現在群馬県太田市のアパートで一人暮らしをしています。当事者が国の精神医療政策を訴えたのは初めてで画期的です。

時男さんの国賠訴訟に対する思い、弁護士からは国賠訴訟の意義、裁判の現状をお聞きします。

- 主催 五叉路会 (代表 中沢正夫)
- 問合せ ⇒ 氏家憲章(携帯 080-2251-8780 /E-mail fa45875@rj8.so-net.ne.jp)

-----<申し込み>-----

①お名前：

②所属：

③zoomURLを受け取るメールアドレス：

④ご入金時の表記名：

Fax 03(5385)2299 きょうされん まで